

# 学校だより特別号

京都市立醍醐小学校 校長 松下 智祥

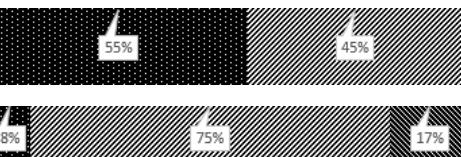
本校では、学校教育目標の実現を目指し、学校評価としてアンケートを行っています。アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

## アンケート【地域】

学校には、質問や相談しやすい雰囲気がある



学校だよりやホームページで学校の様子が伝わってくる



子どもたちは、自分から進んであいさつをしている



子どもたちは、交通ルールを守り、安全に気を付けて行動している



## アンケート【児童】

目標に向かってがんばって取り組んでいる。



自分にはよいところがあり、今の自分が好きだ。



人が困っているときは進んで助けている。



「ありがとう」や「ごめんなさい」が伝えられる。



学校に行くのは楽しい。



困りごとや不安があるときに先生に相談できる。



自分から進んで体を動かしている。



自分の住んでいる「醍醐のまち」が好きだ。



将来の夢や目標(こんな人になりたいで生きようになりたい)をもっている。



自分から学習に向かっている。



自分の考えを伝えることができている。



自分から進んで家庭学習をしている。



自分から進んで読書をしている。



自分から進んであいさつをしている。



先生は私の良いところを認めてくれている。



## アンケート【保護者】

学校は、よりよい教育活動に向けて努力していると思う。



自分は、子どもたちにその子自身のよさを積極的に伝えられている。



自分は、子どもが自分や人を大切にできるよう働きかけている。



自分は、子どもたちに時や場に応じて、「ありがとう」や「ごめんなさい」を伝えられている。



子どもは、楽しく学校に通うことができている。



自分は、子どもたちの相談に乗れている。



わが子が、自分から進んで体を動かすような言葉かけをしたり、機会をもったりしている。



自分は、地域や社会の活動に参加できている。



わが子が、本をよく読むように声をかけたり、本をすすめたりしている。



## アンケート【教職員】

自分は、学校教育目標の実現のために努力していると思う。



自分は、子どもたちにその子自身のよさを積極的に伝えられている。



自分は、子どもが自分や人を大切にできるよう働きかけている。



自分は、子どもたちに時や場に応じて、「ありがとう」や「ごめんなさい」を伝えられている。



自分は、子どもたちが楽しく学校に通うことができるよう働きかけている。



自分は、子どもたちの相談に乗れている。



自分は、子どもたちが進んで体を動かすような言葉かけをしたり、機会をもったりしている。



自分は、家庭や地域との連携を大切にしている。



自分は、子どもたちの読書習慣が定着するように働きかけている。



自分は、自分から子どもたちにあいさつできている。



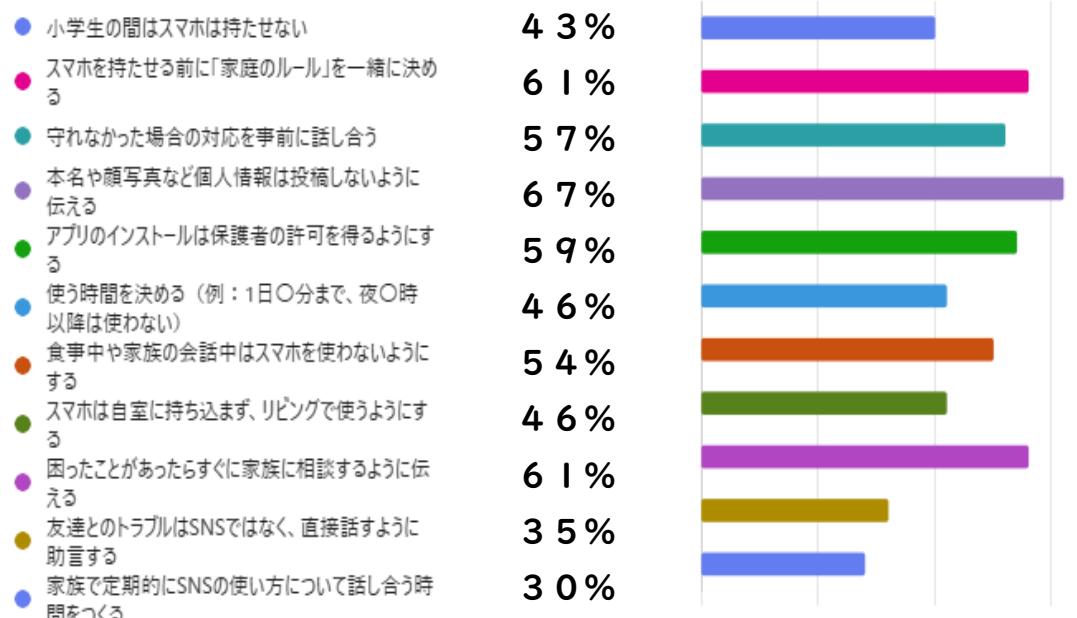
### グラフの見方

#### 質問項目



あまり</

## 醍醐小学校保護者アンケート「SNSとの付き合い方」より（令和7年7月）



## 醍醐小学校の子どもたちのスマホ利用とルール

### ～イマドキのSNSとの付き合い方～

スマホを子どもに「買い与えるとき」は、親（大人）が主導権を持つ数少ないタイミングです。だからこそ、その瞬間を逃さず、ルールを先に決めておくというはどうでしょうか。

問題が起きてからルールを決めようとしても、すでに子どもが自由に使い慣れてしまっている場合、ルールの導入は何倍も難しくなります。親子間の信頼関係にも影響を及ぼしかねません。SNSとの向き合い方は、学校でも発達段階に応じて、繰り返し伝えたいと思います。

#### ※ ルール作りの、さらにその先へ

スマホやSNSに関するルールは、子どもを守るために大切な手段です。しかし、ルールだけでは十分とは言えません。大切なのは、デジタル社会を生き抜く力を育てることです。

#### ◎ 目的の共有

「連絡のため」「学習のため」など、スマホを持つ目的を親子で共有することで、スマホは「遊び道具」ではなく「目的達成のツール」として認識されます。

#### △ リスク教育の重要性

危険をただ禁止するのではなく、「なぜ危ないのか」を具体的に伝えることで、子ども自身がリスクを判断し、避ける力を育てます。

#### ◎ 見守る姿勢

使用履歴の確認も「監視」ではなく「安全のための見守り」として、子どもと合意の上で行えば、いざという時のセーフティネットになります。

#### 親子の対話と方針

##### 【保護者の方の声から】

「制限時間などは「今日だけ、特別！」を作らない。子どもとルールを作ったなら、親もブレずに守りぬいたほうがいい。」

#### 親子の対話と方針

「スマホをなぜ持たすのか親側がしっかり目的意識をもって、子供に危険性をちゃんと伝え、必要に応じて使用履歴をチェックするなど、親の意識が大切。」

#### 時間管理の工夫

##### 【保護者の方の声から】

「YouTubeは電車の移動時間のみ。食べ物を粗末にするYouTube・番組は全て禁止しています。」

#### 時間管理の工夫

「学習時計が時間管理に役立っています。宿題も細かく時間を区切りタイマーを鳴らすことによって集中力が続くようです。」

#### 機能・物理的な制限

##### 【保護者の方の声から】

「普段のスマホの置き場所は、すぐ手にとれる位置に置かないようにしています。」

#### 機能・物理的な制限

「小学生の間はゲーム（時間を決めて）と家族間の連絡手段のためのもので、友だちやSNSのやり取りは行わない。」

#### 機能・物理的な制限

「スマホを持たせていますが、LINEにはつなげず、時間もネットも強めに制限をかけてるので、親との連絡と場所確認のみで使っています。」

#### 機能・物理的な制限

「そもそも保存容量が小さいスマホを渡し、ギガも最小にして、連絡手段でしか使えないようにしておけば、いらぬ心配をしなくて済む。」

### 目標指すのは「自分でコントロールする力」ですが・・・

SNSやゲームは、世界中の一流のプロたちが、「いかに長く人の注意を引きつけるか」を考え抜き、莫大な知識と技術を注ぎ込んで創り上げたものです。そんな強力なコンテンツを相手に、「自分で時間をコントロールしなさい」と子どもたちだけに任せるのは、そもそも無理があるのかもしれません。だからこそ、私たち大人の伴走が必要です。一方的に禁止するのではなく、その楽しさを認め、共感しながら、「今はここまで」と優しく手を引いてあげる。その役割を、社会全体で担っていく必要があるのではないでしょうか。

- ・ 脳の発達段階：ノースカロライナ大学などが行った研究では10代の脳は、報酬や快楽を求める部分が活発になる一方、衝動を抑える前頭前野はまだ成熟していません。そのため、SNSが与える「いいね！」などの瞬間的な報酬に非常に弱く、自力で利用を中断することが脳科学的に困難だということです。
- ・ 心理学的設計：SNSは、「変則強化スケジュール」という心理学的手法（いつ報酬がもらえるか分からないから、つい継続してしまう）を用いて設計されており、これは依存性が非常に高いことが知られています。

### ④ 「心の休憩時間」をルールでつくる

スマホを常に手元に置く状態から、意図的に解放してあげましょう。これは「禁止」ではなく、脳と心を休ませるための「積極的な休憩」です。

- (1) 寝るとき：寝室に持ち込まない
- (2) 食事中：テーブルに置かない
- (3) 勉強中：引き出しにしまう

こうしたシンプルなルールでも、子どもは「今、目の前のこと」に集中する時間を取り戻せます。